

広島大学大学院人間社会科学研究科（博士課程前期）
法学・政治学プログラム入学試験
（令和7年8月実施）

問 題 専 門 科 目 〔 政 治 学 〕

問題 規範的政治理論における自由主義と多文化主義の関係について論じなさい。

政治学 出題の意図

問 規範的政治理論における自由主義と多文化主義の関係について論じなさい。

自由主義と多文化主義の関係について規範的政治理論の観点から論じることができるかを問う問題である。

規範的政治理論における自由主義の意義を個人の自律性などの点から説明し、多文化主義理論の意義を国家による少数派文化集団の文化的権利の保障の点などから説明した上で、自由主義と多文化主義の相互の関係性について、適切に各自の考えが述べられているかがポイントになる。

例えば、多文化主義の政治哲学者ウィル・キムリッカによれば、自由主義の核心とは、個人の自律性、すなわち、個人の自由な選択に基づく決定である。この個人の選択に有意義な選択肢を提供するのは、各人が帰属する民族の文化、すなわち、「社会構成的文化(societal culture)」である。従って、個人の自由な選択にとって有意義な選択肢を提供する民族の文化を保障するという点で、多文化主義は自由主義の理論において意義があるといえる。

しかしながら、多文化主義において、上記のような個人の所属する民族の文化の保障には限界もまた存在する。主流社会の経済的・政治的決定の影響から少数派文化集団の文化的権利を保障する自治権のような対外的防御は、多数派文化集団と少数派文化集団の間の文化的権利における不公平を是正するものであり、自由主義の理論には反しない。しかし、少数派文化集団がその成員の基本的権利を侵害する対内的制約（背教や改宗の禁止など）は、その集団を離脱する自由を含めた個人の自律を制限するので、自由主義の理論に反するとされる。